

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 令和 3年 3月 31日

事業所名 放課後等デイサービスわいわいほす

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	評価や改善すべき点と改善策 改善策又は改善効果	
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		机は折りたたみ式。	R2年5月に広い物件に移転することができた。	
	2 職員の配置数は適切である	9			適切に配置できている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	3		新しい物件は2階建てなので、階段には手すりを設置している。	
	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	8	1	送迎の前夜で働く振り返りなどをやっている。	スタッフへの取り組みを行い職員と共に業務改善に努める。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9		連絡帳に入れて回答をお願いしている。	保護者会は新型コロナウイルス対策の高行でないが、アンケートを実施しご意見やご意向等を把握できるよう努める。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9		結果を職員にも周知し、改善点や改善方法を話し合っている。	ホームページで公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		9		第三者による外部評価は行っていない。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		新型コロナウイルス対策のため、zoomによる研修を実施している。	外部研修に参加後、内部研修としてすみやかに職員に周知するよう努める。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを選択的に、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9			アセスメントを行い、放課後等デイサービス計画を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9		チェックシートにて使用している。	使用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	9		職員の意見を聞きながら、チームで行っている。	行っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9		職員で案を出し合っている。	移転により新しい活動プログラムを取り入れやすくなった。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9		休日・長期休暇は職員支援を中心に行っている。	今後も課題を決め色んな形で支援できるように努める。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9		一人一人の状況を考慮し、適切な活動でやるよう計画を立っている。	作成できている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	3	特に外出やイベントの支援は必ず人員確認するよう努めている。	毎日の打合せを職員全員が意識出来るよう、LINEを用いて全スタッフに共有している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、良かった点等を共有している	8	1	振り返りや、今後の注意点があれば必ず共有している。	休休のスタッフにも共有できるように、LINEを用いて行っている。	
	17 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9		正しい記録をとることで、気付いていなかった職員も目を覚ましていく。	必要であれば、支援記録を改善変更するなどしていく。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9		最低でも半年に一度のモニタリングを行っている。	半年未満でもモニタリングが必要であれば行う。	
	19 ガイドラインの原則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	9		自立支援や創作活動など、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	今後も継続する。	
	関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した職員が参加している	8	1		児童発達支援管理責任者が参加している。
		21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9		送迎予定表を渡すなど、出来る限りの情報共有を行っている。	今後も適切な情報共有を行う。
		22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		9		現在医療的ケアの必要な児童の利用はありません。
		23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9			必要であれば児童の状況や支援内容の確認をしている。
		24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する		9		現在はまだ卒業した児童がないため行っていないが、今後情報提供を行って行く予定。
		25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受ける	9		専門機関が開催する研修や、交流会に参加させてもらっている。	新型コロナウイルス対策により交流はむずかしかったが、オンラインなどを用いて今後も継続する。
		26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		9		新型コロナウイルス対策により交流する機会はありませんでした。
		27 (地味自立支援)協議会等へ積極的に参加している	8	1	基幹相談支援センターとの交流に積極的に参加している。	新型コロナウイルス対策により交流はむずかしかったが、オンラインなどを用いて今後も継続する。
28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		9		連絡帳や送迎時一きちんとお伝えできようように努めている。	全ての保護者に連絡帳を有効に活用してもらえるよう努める。	
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている		9			対応力の向上を図るための家庭支援を行っているが、プログラム化できるよう努める。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9		契約時に十分な時間とってもらっている。	今後もきちんと説明を継続する。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9		相談があった時や、イベントの開催に関する助言などを行っている。	今後も継続する。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	2		新型コロナウイルス感染症予防対策の高齢者会は実施した。	
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9		重要事項の説明時にきちんと案内するとともに、苦情があった際はすぐに対応している。	今後も継続する。	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		ホームページやFacebook、おたよりなどを定期的に発信している。	HPなどはイベントごとに更新し、おたよりは学期ごとに発行するよう準備している。	
	35 個人情報に十分注意している	9		外出時の計画など外に持ち出す物には、個人が限定できないように記載するなどして注意を払う。	細心の注意を払っている。	
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9		送迎時にその日の様子をお伝えし、ご家庭の様子やご要望等の疎通を図っている。	今後も継続する。	
	37 事業所の所在地に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		9		現在は行っていないが、今後地域住民を招待できる行事を検討していく。	
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		9	緊急時対応マニュアル等と、保護者向けマニュアルも作成し配布している。	新型コロナウイルス感染症対策マニュアルも追加し配布した。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		9	毎月様々な避難訓練などを行っている。	今後も継続する。	
非常時等の対応	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応を行っている	9		虐待防止研修に参加し、定期的に研修についての話し合いを行っている。	今後も継続する。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に定めた上で、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9		重要事項説明書に身体拘束について記載している。	現在は身体拘束を行う必要がある児童の利用はないが、組織的な決定は必要と考えられるので、十分に説明できるように準備している。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		9		現在、医師の指示書があるアレルギーの児童はいません。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9		ヒヤリハットの作成をし共有している。	事例集は今後作成していく。	